

我が霊(第百三聖詠)(二番)

わ が た ま - し い - や - 主 を ほ め - あ げ よ

The first system of musical notation consists of two staves, a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

主 わ が - か み や

The second system of musical notation consists of two staves, a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

なん じ の だ い な - る こ と - か ぎ - り - な - し

The third system of musical notation consists of two staves, a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

なん じ の 光 え い と ち か - ら の

The fourth system of musical notation consists of two staves, a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

おごそかなること - は - か - りがた - し

あ - に 主のなせしこと - か - ぞ - え - んや

われいけるう - ちわが主をうたいほめん

ねがわくはわがうたは主にいれられん - を

われ主のた-め-に - たのし-まん - たのし-まん

光榮は父と子と聖神に歸す今もいつも世々にアミン

ア-リルイヤ、ア-リルイヤ、ア-リルイヤ神や光榮は爾に歸す

ア-リルイヤ、ア-リルイヤ、ア-リルイヤ神や光榮は爾に歸 - す

悪人の謀にゆかざる人は福なり(二番)

あ く 人 に く み せ ざ る 人 は さ い わ い な り

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

主 は 正 し き 人 の 道 を 知 る 不 義 な る 人 の 道 は ほ ろ び ん

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ゆっくと

おそ れて主 につとめよ 慎しんで主のま えによろこべよ -

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

主 を た の む 者 は さ い わ い な り

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

光 榮 は 父 と 子 と 聖 神 の も の な り い ま も い つ も 世 々 に ア ミ ン

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

## 聖ソフロニイの祝文(二番)

キエフの歌譜

天にましま - すちちの光 - えいのおだやかなる

ひかり イイ双ハスト - スやわれら 暮れにのぞんで 入り 日を見

一たいのか みちちと子とせい神 - をあがめうたう - -

かみの子やいのちをたまうの主

なんじはいつもつつしみうたわるべし

The first system of the musical score consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat (F major) and a common time signature. It contains a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The piano accompaniment is primarily chordal, with some eighth-note patterns. The lyrics are: なんじはいつもつつしみうたわるべし. The final measure of the system features a sharp sign (#) above the staff, indicating a key change to G major.

ゆえに世にあらゆるものはなんじを尊とみほむ

The second system of the musical score continues the vocal line and piano accompaniment. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat (F major) and a common time signature. It contains a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The piano accompaniment continues with chordal textures and eighth-note patterns. The lyrics are: ゆえに世にあらゆるものはなんじを尊とみほむ. The system concludes with a double bar line.



生神童貞女や慶べよ

アルハンゲリスキイ 作曲

しょうしんどうていじょ  
生 - 神 童 貞 - 女 よ よ る - こ べ よ  
おん ちよ う  
恩 寵 - に み た

さ る る マ リ ヤ よ しゅ 主 は なん じ と と も に す

なん じ は おん な の う ち に て さん び 美 た り

なん じ の は ら の み 実 も さん び 美 た り  
なん じ は わ れ ら

の た ま し い を す く う の しゅ 主 を う め ば な り

# 主の名を讃めあげよ (六番)

訳：デ・リオフスキー

しゅ な を ほ め あ げ よ しゅ しょ ぼく  
主 の 名 を ほ め あ げ よ 主 の 諸 僕 や ほ め あ げ よ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

イ エ ル サ リ ム に ま し ま す の 主 は シ オ ン に あ が め ほ め ら る

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

主を尊<sup>とう</sup>とみほめよ かれは仁<sup>じん</sup>慈<sup>じ</sup>にして

そのあわれみは世<sup>よ</sup>々<sup>よ</sup>にあればなり

ア<sup>ア</sup>リル<sup>ル</sup>イヤ<sup>ヤ</sup>ア<sup>ア</sup>リル<sup>ル</sup>イヤ<sup>ヤ</sup>ア<sup>ア</sup>リル<sup>ル</sup>イヤ<sup>ヤ</sup>

天<sup>てん</sup>のかみ<sup>とう</sup>を尊<sup>とう</sup>とみほめよ そのあわれみは世<sup>よ</sup>々<sup>よ</sup>にあればなり

A musical score for a piece titled "Ariya". The score is written on two staves: a treble clef staff for the vocal line and a bass clef staff for the piano accompaniment. The key signature is one flat (B-flat major or D minor). The vocal line consists of the lyrics "ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ" written in hiragana. The piano accompaniment features a steady bass line with chords and some melodic movement in the right hand.

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

## 我が心は主を崇め(第二番)

わが心は主を<sup>たましい</sup>あがめわが霊は神わが救主をよろこぶ

ヘルムより尊とくセラフにならびなくさかえ<sup>みさお</sup>操をやぶらずして

神ことばを<sup>ひ</sup>生みしじつの生神女たる爾を<sup>かえ</sup>あがめほむ

その<sup>ひ</sup>婢のいやしきを<sup>かえ</sup>願りみたまえり

今よりよろずよ万代われをさいわいなりと  
言わん

ヘルヴィムより:

力もち給えるものはわがために大おおいなることをなせり

その名は聖なりその憐れみは世々かれを畏おそるもののにのぞまん

ヘルヴィムより:

そのひじのちからをあらわして心のおごれるものをちらしたまえり

ヘルヴィムより:

権あるものを位よりしりぞけいやしきものをあげ

う 飢うるものを善にあかしめ富めるものをむなしくかえらせたま えり

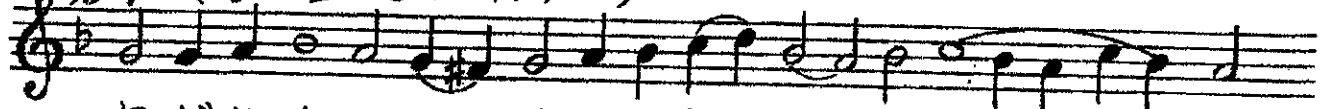
ヘルヴィムより：

その僕イスライリをいれてわが先祖につげしがごとく

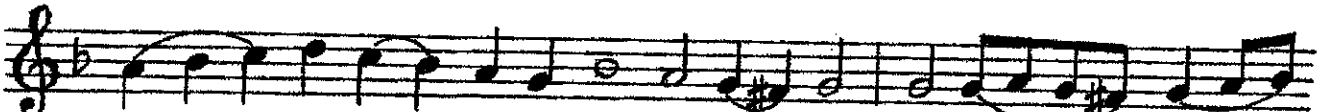
アウラアムとそのすえを世々にあわれむことを記憶したま えり

ヘルヴィムより：

第9 (常に福にしての代りに)



わがたましい やいとと、と き主 の



十 字 架 を ほ め あ げ よ 生 神 女



や な じ は ひ み つ な る ら く を 植 え ず し



て <sup>ハ</sup> <sup>ト</sup> え を せ い い く せ し も の な り か れ




は 地 上 に 十 字 架 の い の ち を ほ ど こ す



木 を う え け た ま え り ゆ え に



い ま こ れ を あ ぐ る と き わ れ



ら こ れ を お が み て な じ を ほ め



あ ぐ る